

# かいぞう

## 地区広報

### 子ども自らの貴重な体験を広める日に



— 学校週五日制を契機に地域での子育てを考える —

土曜日が発足して数回。果して各家庭では如何。過日、ある中学生グループの一日を聞いた。朝はのんびり、十時頃テニスクラブ仲間四人と、予約しておいた三滝コートへ自転車で。一時頃まで汗をかき、社会探訪の一端とヘルスセンターへ、腹ごしらえのあと、どんな湯なのか全部試そうと湯めぐりを楽しんだ。そして七時の家庭門限までには帰宅したという。

#### 子供たちの自主性・独創性の尊重と育成

月一回のことだから、寝そべってテレビを見ていても仕方があるまい。小遣いを与えたが無駄遣いをするのではないか。子供だけ残して仕事に……そんなことを考え心配したらきりが無い。どこかで割り切らねば。結果として、どう過ごせたかは、今までの子育ての評価という見方はどうだろう。

彼らのこの一日には、自主性、計画性があり、仲間を通じた体験と交遊の広がりもあって、私は中学一年生らしいさわやかな行動の一面としてみることができた。

親の仕組んだ時間割ならば、それがなければ行動しないだろうし、熱中したいものがあれば、自分でその時間を生み出しても精を出す。

#### 子どもの発想・選択・冒険

#### ……地域での見守り……

何をするにも準備が必要。外へ出れば事故も気になる。手綱を緩めれば、それだけ心配がふえる。こう考えることは、子どもを信頼しないことだと思いませんか。

前向きに取り組むと芽を生かし、どう伸ばすかが大切。成長とともに、その舞台も広がり、知恵を出し合うことに、いくつかの発想も、選択の幅も出来ると思う。

地域は、子どもにとって、こんな場としたい。自然も人も、構築物も。みんな故郷として、子育ての要素としての意味を持つ。

月一回であっても、子供の成長にとっては、かけがえない貴重な経験の機会であるかもしれない。親も、この一日を、わが子を試す日としたらどうだろう。目前の二十一世紀に羽ばたく人間の育成について、静かに発進した土曜日を、わたくしたちは、こう見守っていきたい。

海蔵地区の人口 総数 11,101 男 5,500 女 5,601 世帯数 3,702 (2月末現在)

編集・発行 海蔵地区社会福祉協議会・海蔵地区市民センター

# わたしにとつての学校週五日制

## こんなふうを受けとめたい

与えられたテーマは

自由

どう使うか……

どう生かすか……

さしずめ主役は子供、

大人は、黒子というところ

子供達の発想を、

私達は見守りたい……

## 学校5日制について

中二男子

僕は、学校五日制になって、第二土曜日を、有効に使っているかと聞かれると自信はありません。父も母も仕事がありますから、家には妹と祖母と僕の三人です。妹とトランプやゲームをしたり、本を読んだりして午前中をすごしています。四月から中三ですのでしっかり勉強日にしたいです。



## 地域の子供と関わって

スポーツコーチ

先日ある母親グループとの話。「うちの子供は毎日塾で、日によ

っては、掛け持ちで塾塾・ご飯もカミカミ」別の母親も「うちも一緒、親も大変」と子供の塾談義。今の子供は昔のことは知らず比較することはできないから、大変なのかどうかはわかっていないのはと話が落ちついた。でも、子供にはゆとりはなさそうと……。

最近「心のゆとり」「心の豊かさ」が叫ばれるようになったが、これは子供にも当てはまる。今こそ子供はこのような人になれとつけた名前を思い出し、明るく楽しい親子の場を、心の教育をすべき時である。そのためには親が積極的に子供に接し、できれば戸外へ、スポーツに。

第二土曜日がこの意味からも親子の共生の日となることを願う。

## 子供たち自らの時間

海蔵小学校 三年担任

「土曜日にね、万古焼工場を見学してきたよ。おばさんが親切に教えてくれて、おみやげももらった。その後みんなで弁当を食べ、広場で遊んだん。めっちゃよかったよ。」月曜の朝、教室に入った私に、十二月第二土曜日の過ごし方を話してくれたクラスの子どもたち。その表情は、底ぬけに明るく、満ち足りた様であった。

というのは、社会科の万古焼の学習を進める中で見学の必要性が出てきたのだが、子どもたちは、自分たちでグループ作り、見学場所、日時を決めたいと言いついた。子どもの主体的な考えを尊重し計画を立てさせてみたところ、いつ行くのかグループ内の調整がうまくいかなかった。放課後は、塾や習い事があってメンバーがそろわないのである。そこで考えついたので、第二土曜の休日であった。今まではこの休日を、家族と過ごすか、出かける子も多かったが、今回は仲間と計画を立てて意欲的に学び、共に遊ぶ楽しさも味わった日となったらしい。

これこそ、学校五日制の目指す一つの道ではないだろうか。

## 第2土曜日を

### 海蔵地区では

学校五日制が九月十二日から始まりました。これによって子ども達は、毎月第二土曜日は休みとなりましたが家庭の事情でやむを得ず子どもを学校で過ごさせたいという方のために小学校の施設を一部開放(グラウンド・体育館・低学年用図書室)して頂き、午前八時三十分より十一時三十分まで指導員が世話をしております。参加する児童は、通学路を通り学校まで徒歩とし、水筒を持参、間食は持っていない等、ふだんの登校と同じ様子で学校まできます。ほとんど体育館で時間を過ごし、ボール投げをしたり、マット遊び、かくれんぼ、平均台と次から次へと自分達の好きな遊びにかわっていき、三時間をめいっぱい楽しんでかえっていきます。



### 三重地区では

市の研究推進校である三重小学校では、平成四年より地区社協が中心になり、五日制研究会を発足。受け皿として、どんな事が出来るか検討してきました。又、三重北小学校では、従来行っていたPTAの部活を基に、保護者が受け皿となっています。当面は地区内の史跡巡りとスポーツ教室を交互に開催します。育成会主催で郷土史編纂会のメンバー(地区の人)が先生となり、昆沙門天行きや、体育部のかたちたちで、タスポニー、ドッジボールなど、毎回工夫をこらした企画に参加者も多く、盛況です。あわせて、消防署の放水体験、講演会など地域の各団体独自の取り組みも行われています。子供達への、強制でない自由な時間づくりを目指して地域や保護者が一体となった五日制への実践がありました。



# 子供達の問題から

## 家庭・地域のとりくみへ

### 「学校5日制を考える」

#### 講演会

齊藤憲孝教育委員会指導課長をお迎えしての、十月八日の講演会のあと、参加者の皆さんにアンケートに答えていただきました。

設問の一つが、「五日制になったら子供にどうさせたいですか」。

①のんびり、ゆっくりリフレッシュさせる。

②趣味・興味・関心のあることをさせる。

③自由にさせる。

①習い事に通わせる。  
②予習・復習をさせる。  
③学習塾等で学力の充実となりました。

お話の主旨が、「ゆとりと充実」ある生活をさせ、心豊かでたくましい子供たちを育成したい、というところにあつたので、当然の回答ともいえませんが、親たちが、あらためて、今の子供をとりまく環境と、親自身の日常を見つめなおす講演とアンケート調査ではなかったかと思えます。自由に出来る一日を手に入れた子供への願いはどうも親自身が同じ様になった場合の願いと重なり合っているよう

な気がします。

今ここで短兵急に、この一日をどう使うべきか、などと親が決めないほうが良い気がします。子供たちが自分で、もっと自然に、欲しいもの、やりたい事、なりたい状態を捜すことにこそこの時間をつかえばいいのではないのでしょうか。そう、もっと自分を大切にしたい、思いっきり楽しい事をするために。

そして、残念ながら今すぐ休みを増やせない親たちも、なんとか時間をとって、自分にも同様の間いかけを始めたいものです。

### 「地域に育つ子供達」

#### 子育てO・B(女性)

「ただいま、お母さんは」学校の草取りをしながら、ハツとしました。うれしいやら、なつかしいやら、自分の幼いころの思い出とながったのです。学校から帰って母の姿を見ると、安心して、遊びに行けたものです。昔も今も母子の絆の強さは変わらなず、家庭環境の大切さを考えさせられました。現在子供に、三つの「間」がないと、聞かれます。親が子供に習い事を多くさせて『時間』が無い。広い土地には、ビル等建てて、『空

間』が無い。親しく話し合える遊ぶ『仲間』が無い。という生活を大人がさせているのではないのでしょうか。社会情勢の変化の激しい今の時代に、ふざわしい子供にするため、いろいろな体験をさせ子供なればこそ持っている創造力と、豊かな感性、自然を愛する心を、養う必要があると思います。

天の半分を支えている女性こそ優しく、又きびしい目を持って、地域の子供を、温かく育てて行きたいと願っています。

### 「私の提案」

#### 子育てO・B(男性)

学校の週休二日制については、教育関係者および父母の間で賛否の意見が報道されていますが既に実施に踏み切った今日では、これを如何に生かすかを考える時だと思えます。

運動も良し、勉強も良いがこれと一緒に、また遊び心で徒歩による史跡巡りや山野の跋涉はどうでしょうか。幸い三重県及び近県には有名な神社仏閣または古戦場や城跡等の史跡が多くあり非常に恵まれて居りますので現地で勉強は何時までも心に残るものと思えます。

又、御在所岳や鈴鹿の山にも動植物の観察、自然環境の保護の大切さを学ぶのによい場所と思えますがただこれを誰が指導するか、家庭か、子供会か、学校かの問題があります。

## こんな提案・こんな意見

海蔵地区で活躍するボランティアの皆さんに、五日制についてお尋ねしたら……。

☆家？ 学校？ そと？ 広場？ それとも文庫？  
何をしてても良い一日っていいよね でも ただ一つ 何をするにも 『心』をこめてね。

☆5ヶ月目になり、落ちついてはいるが、むしろ見えないところでの『しわよせ』が心配である。

☆カギッ子になる少数者の声なき声に耳を傾け地域・学校・親の協力で『土曜学校』などの充実を。

— 完全5日制に向けて —

☆全企業、全業種での完全週休2日制の促進と育児休業保障の充実強化を！

☆教諭の労働条件(週休2日制)の問題であり、いたずらに子供の『ゆとり教育』を前面にしたのがそもそものボタンのかけちがい。

☆全部に矛盾を感じる(外へ働きに行かなくてはならない日本の状況・小学校の間は、鍵っ子にしない。幼児作法が出来てない。大学に行くにはお金がかかる。)

☆子供の自立を願う親として、今私自身がどうあるべきか、月一回は、自己点検の日と考えています。

☆障害児と健常児が触れ合う機会として、絵画教室を開き、一つの作品を通して分かりあえたら良いと思う。

☆企業や大学なども個性を重視して採用選択しつつあるなか、自由時間の増加をとらえて、個性をのばす教育をめざしてほしいと思う。